



ニューヨーク補習授業校だより

平成 31 (2019) 年

2月2日発行

第34号

# 絆・きずな

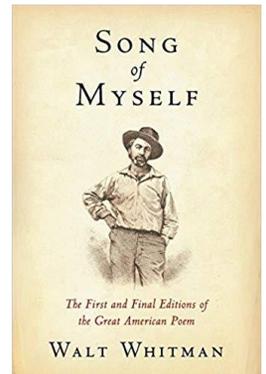
夢のふくらむ学校

## 節分を迎えるにあたって思うこと

冬至(12月23日ごろ)から45日目を「立春」(2月4日頃)、その前日を冬の節から春の節に移る「節分」としました。季節の変わり目ですから、陰と陽が対立して邪気を生じ災禍をもたらすとして、昔からこれを追い払う追儺(ついな)の式が行われるようになりました。これが「豆まき」です。補習校幼児部では、節分にちなんで鬼のお面を作ったり、豆まきをしたりします。

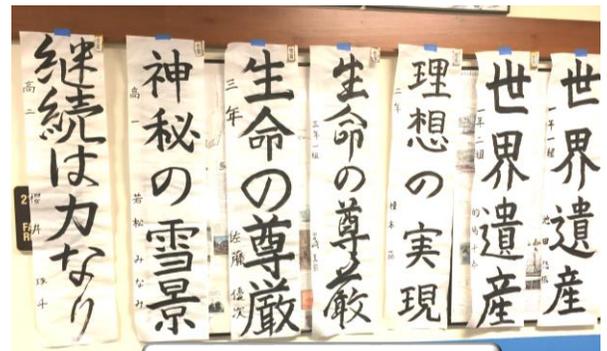
ちなみに、日本では「立春」を過ぎて吹く南寄りの強い風を、「春一番」と呼んでいます。詩的な表現ですね。俳句の季語にもなっているそうです。しかし、現在ニューヨークはもとより、アメリカの北部を中心に猛烈な寒波が居座っています。「シカゴは北極よりも寒い」とニュースで放送していました。その時のテレビのレポーターは、スキー用のゴーグルを着用していました。ウエストチェスターでも気温マイナス12℃の厳しい寒さの中、子どもたちは現地校に通っています。強烈な寒さにも、そして「春一番」のような強い風にも負けない強い心と体をはぐくんでほしいものです。

ロングアイランド出身の詩人で、「自由詩の父」と呼ばれるウォルト・ホイットマン(1819~1892)の言葉に「寒さに震えた者ほど太陽の暖かさを感じる。人生の悩みをくぐった者ほど生命の尊さを知る。」というのがあります。非常にシンプルで、前向きなこの言葉を聞いたとき、私は、補習校に通う子どもたちを思い浮かべました。週5日間現地校に通い、金曜日の夜には他の子が週末の楽しい計画を立てている中、補習校の宿題に取り組み、翌朝眠い目をこすりながら補習校にやって来ます。お父さん、お母さんも、仕事で疲れた体にむち打って、お弁当を作り、送迎して下さいます。「寒い、眠い、だるい」状況でも、気持ちを奮い起こして補習校に通うこと、そのことは、きっと子どもたちや保護者の皆さんにとってもかけがえのないものとして有形無形に結実すると信じます。今はまだ、その気配も感じないかもしれませんが、冬を越えた後の春の暖かさはひとしお身にしみることでしょう。



補習校卒業生に聞く会の(LI校)

左は、昨年12月にLI校で行われた「補習校卒業生に聞く会」の写真です。主に中高等部のお子さんをお持ちの保護者の皆さんが多数参加され、現地校との両立の仕方やモチベーションの維持の方法などについて、大学生の皆さんが自分の



書き初めの展示(W校)

経験を率直に語ったり、具体的な事例を話したりしました。実際、現地校の課題と補習校の課題の多さに、大変苦労したことや仲間と一緒に頑張ったことなど、生徒達にも聞かせたいほどの内容の濃い会でした。折しも、W校では、書き初めで「継続は力なり」と大書した力作が掲示されていました。

### お知らせ

硬筆コンクール優秀作品展を紀伊國屋書店に展示中! 2月7日(木)まで

ICU(国際基督教大学)説明会(@LI校)について

2月9日午前10:00(予定)よりLI校音楽室にて、ICU(国際基督教大学)が保護者向け学校説明会を行います。(LI校保護者会主催) つきましては、W校保護者の方で参加を希望される場合は、W校主幹福田までご連絡ください。